

内分泌・代謝学共同利用 共同研究拠点セミナー

生活習慣病解析プロジェクト共催

「質量分析装置の最先端創薬・診断への応用」

The leading-edge applications of mass spectrometry in drug discovery and diagnosis.

講師: 佐藤 孝明 先生、Taka-Aki Sato, Ph.D

島津製作所ライフサイエンス研究所 所長

Director, Life Science Research Center, Shimadzu Corporation

筑波大学グローバル教育院ヒューマンバイオロジープログラム 教授

Professor, School of Integrative & Global Majors Ph.D. Program in Human Biology, University of Tsukuba.

生体調節研究所・疾患ゲノム研究分野・客員教授

Visiting professor, Laboratory of Medical Genomics, Institute for Molecular and Cellular Regulation

日時

2015年

12月10日 木 17:00-18:00

群馬大学生体調節研究所 1階 会議室

近年、プロテオーム解析は網羅的なバイオマーカー探索から、シングルセルイメージングに代表されるようなより詳細なターゲット分子のイメージング解析や蛋白質の糖鎖修飾、リン酸化等の構造解析に移行しつつある。

本講演では、(1) Mass spectrometry Imaging (MSI) 解析法を用いた生体試料の分子イメージング化の試み (2) 免疫ビーズMS法 (Immuno-Beads MS法) を用いた分子診断システムの構築 (3) 最先端質量分析システム開発と創薬・診断への応用の紹介を行いたい。これらの統合システムは、大規模ゲノムコホート研究におけるがん特異的バイオマーカー探索や神経疾患関連バイオマーカー探索に貢献できるのみならず、様々な組織のターゲット分子のイメージング化を可能にし、病態のメカニズムの解明や創薬のための薬物動態の解明に極めて強力なツールとなることが期待される。



ご略歴

1990年大阪大学医学博士(松原謙一教授)、癌研究会癌研究所生化学部研究員(中村祐輔部長)、米国コロンビア大学医学部准教授、理化学研究所分子腫瘍学研究室主任研究員などを経て、現職

群馬大学 生体調節研究所 生体情報ゲノムリソースセンター

お問い合わせ

027-220-8057

畑田 E-mail: hatada@gunma-u.ac.jp